

令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。
平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

3 調査実施日

令和4年4月19日(火)

4 調査の内容

(国語、数学、理科) 教科に関する調査	・ 中学校調査は、国語、数学、理科とする。 ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。	
	【中学校 国語・数学・理科 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
	【20分程度】	

本校の調査結果の概況

中学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	6	70.5	72.2	72.2
情報の扱い方に関する事項	1	50.6	48.3	46.5
我が国の言語文化に関する事項	3	73.5	71.6	70.2
話すこと・聞くこと	3	63.7	64.3	63.9
書くこと	1	50.6	48.3	46.5
読むこと	2	68.9	69.2	67.9

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	55.6	56.9	57.4
図形	3	42.4	44.2	43.6
関数	3	37.8	44.3	43.6
データの活用	3	58.9	58.2	57.1

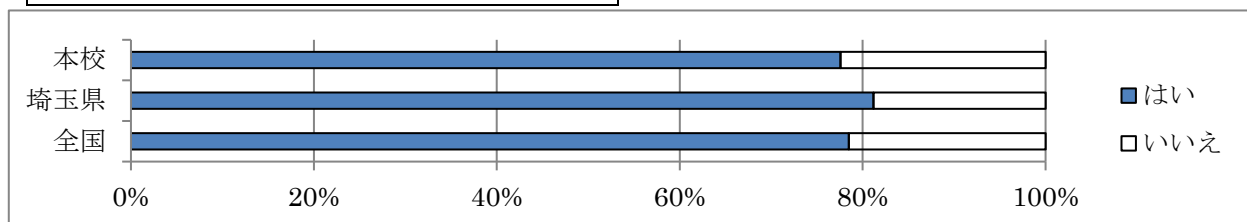
理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	6	37.3	41.1	41.9
「粒子」を柱とする領域	5	47.2	50.5	50.9
「生命」を柱とする領域	5	59.0	57.9	57.9
「地球」を柱とする領域	6	45.3	44.1	44.3

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

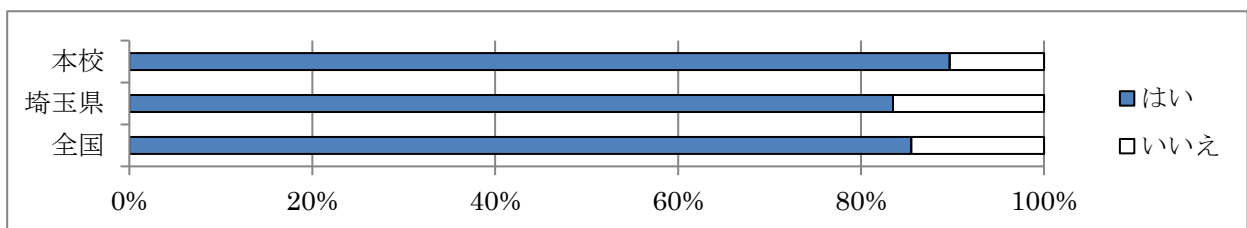
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

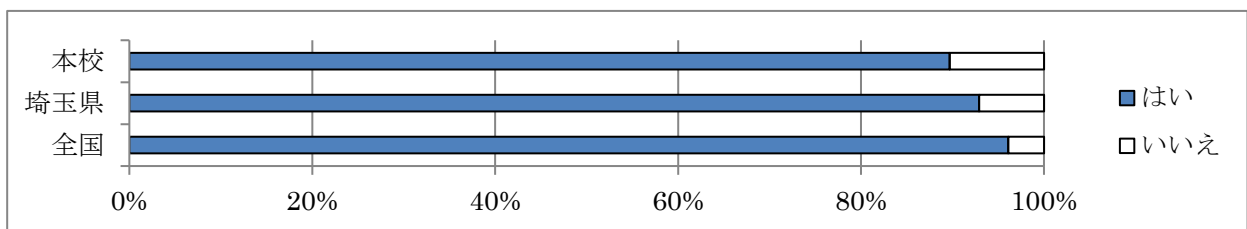
自分には良いところがあると思いますか。



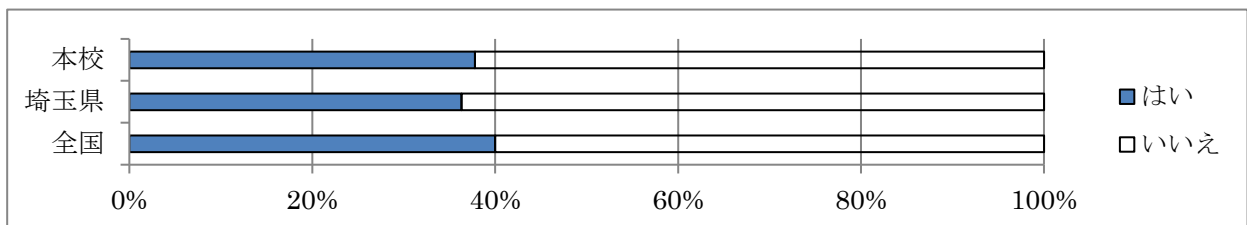
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



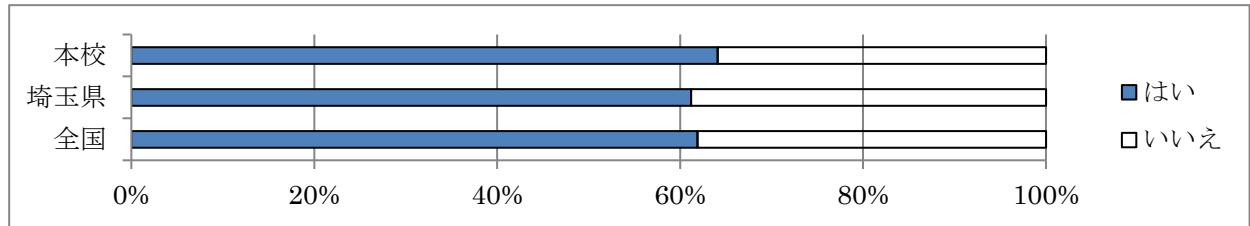
学習の中でPC・タブレットなどのICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



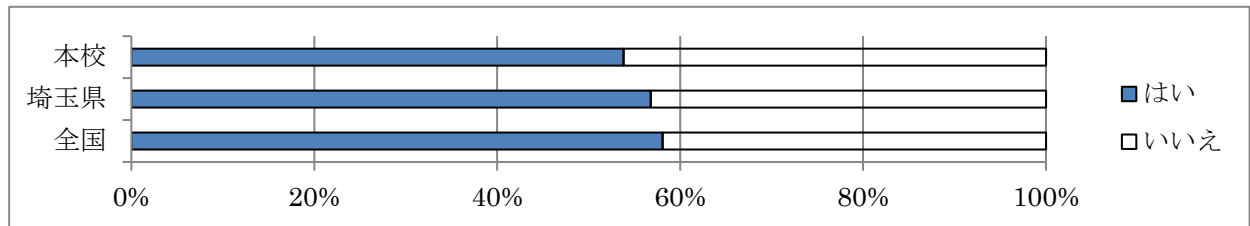
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



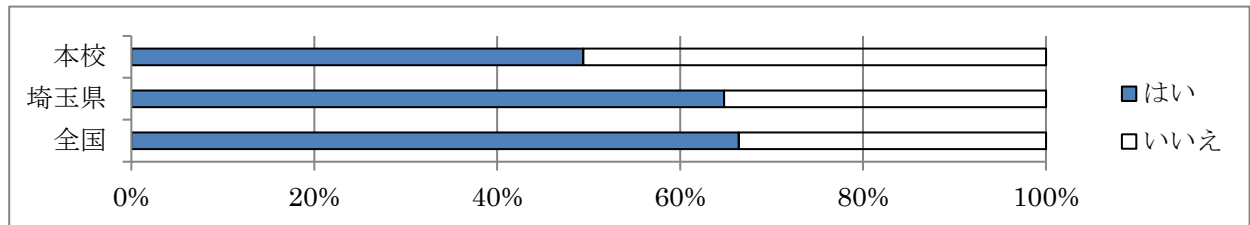
国語の勉強は好きですか。



数学の勉強は好きですか。



理科の勉強は好きですか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

「話すこと・聞くこと」の分野では、全国平均が 63.9% に対し、埼玉県も 64.3%、そして本校は 63.7%、全国平均とほぼ同程度であった。この結果から、授業内における発表形式（問題解決型）の授業の増加、聞き取り問題の実施、音読活動の積極的な取り入れなどが影響し向上したと考えられる。

「書くこと」の分野では、全国平均が 46.5%、埼玉県が 48.3%、に対し、本校は 50.6% と上回っている。定期試験での課題作文の出題や、新出漢字を用いて作文を書く活動の成果と思われる。今後も継続して取り組むべき活動である。

「読むこと」の分野に関しては、全国平均と埼玉県平均の中間程度の結果である。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、助動詞や文脈に即した漢字の利用で 3～5 ポイント下回っていることから、知識として確実に身につけさせる機会が必要だと考えられる。

「我が国の言語文化に関する事項」の内容は行書の理解についてである。無回答率も 0% であり、書写に関する指導が充実しているものと考えられる。

【問題（例）】

問題 4 ー

【最初に書いた文字】について、青山さんは「行書の特徴を踏まえて書くことができています」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の 1 から 4 までの中から一つ選びなさい。



- 1 ㊦の部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができています。
- 2 ㊥の部分は、楷書と同様に点画を直線的に書くことができています。
- 3 ㊦の部分は、点画を省略して書くことができています。
- 4 ㊥の部分は、点画を連続して書くことができています。

正答：1

本校：48.7% 全国 39.4%

<分析>

行書の特徴を踏まえた書き方について説明したのとして適切なものを選択する問題である。

この問題は今回出題された中で全国正答率が低かった問題である。この問題で正答率に 9 ポイント以上の差が出ていることから、『行書』に関する理解の高い生徒が多いと考えられる。

この問題を含め全国正答率が低い問題で、本校の正答率が上回っている例が多い。応用力の高い生徒が多いことが考えられる。

【問題（例）】

問題 2 二②

線部②のひらがなを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

②よろこんでいる

正答：喜（んで）

本校：74.4% 全国 80.5%

<分析>

漢字を書く問題である。

この問題を含め、全国正答率が 70% を超えている問題で、本校の正答率が下回っている例が多い。このことから漢字の理解だけでなく基礎基本の定着に課題がみられる。基礎基本の定着のために、小テストなど自主学習につながるはたらきかけを検討していく。

<数 学>

【領域別】

領域別にみると「データの活用」については県平均も全国平均も上回っている。観点別にみると、「思考・判断・表現」で上回っているが、6(2)の正答率が県平均・全国平均を7ポイント近く下回っていることから基本的な計算力など、数学的な知識・技能に課題があると思われる。一方で6(3)では無解答率は高いが、県平均・全国平均を4ポイント以上上回っていることから、理解の高い生徒も多いと考えられる。4の「一次関数の関係を表した表を選ぶ」問題では、全国平均が37.9%、県平均が37.0%に対し、本校平均は22.6%であり、正答率の差は非常に大きく、知識の未定着や計算力の低さが示唆される。

【問題（例）】

問題6(3)

同じ2つの偶数の和や、差が4である2つの偶数の和のほかにも、2つの偶数の和がいつでも4の倍数になることがあります。どのような2つの偶数のとき、その2つの偶数の和が4の倍数になりますか。前ページの予想2のように、「～は、…になる。」という形で書きなさい。

・予想2：「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。」

正答 説明（例）：

差が4の倍数である2つの偶数の和は、
4の倍数になる。

本校：41.9% 全国37.6%

<分析>

ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する問題である。

この問題は今回出題された中で全国正答率が低かった問題である。この問題で正答率に約4ポイントの差が出ていることから、読解力や表現力など理解の高い生徒が多いと考えられる。

【問題（例）】

問題4

下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア $x \cdots -6 \ -4 \ -2 \ 0 \ 2 \ 4 \ 6 \cdots$
 $y \cdots -11 \ -7 \ -3 \ 1 \ 5 \ 9 \ 13 \cdots$

イ $x \cdots -6 \ -4 \ -2 \ 0 \ 2 \ 4 \ 6 \cdots$
 $y \cdots -5 \ -3 \ -1 \ 1 \ 3 \ 5 \ 7 \cdots$

ウ $x \cdots -6 \ -4 \ -2 \ 0 \ 2 \ 4 \ 6 \cdots$
 $y \cdots -2 \ -1 \ 0 \ 1 \ 2 \ 3 \ 4 \cdots$

エ $x \cdots -6 \ -4 \ -2 \ 0 \ 2 \ 4 \ 6 \cdots$
 $y \cdots -7 \ -4 \ -1 \ 2 \ 5 \ 8 \ 11 \cdots$

正答：ア

本校：22.6% 全国：37.9%

<分析>

変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題である。

正答率の差は非常に大きく、一次関数についての知識の未定着が示唆され、復習が必要である。

<理 科>

【領域別】

「エネルギー」を柱とする領域では、全ての問題で県平均と全国平均を下回っている。また、各問で4～7ポイントの差があり、知識の未定着が示唆され、既習内容の確認が必要だと考えられる。

「粒子」を柱とする領域では、県平均と全国平均から約3ポイント下回っている。特に水素の燃焼の化学反応式を選ぶ問題では、本校正答率は70.3%と高いが、埼玉県平均79.2%、全国平均80.1%と10ポイント近い差が出ている。

「生命」「地球」を柱とする領域は、ともに県平均と全国平均を上回っている。「生命」「地球」では「思考・判断・表現」の問題の出題が多いが、この領域での「思考・判断・表現」の正答率は県平均や全国平均よりも若干高い。観点の差よりも領域による得意不得意の差が強く出ていることが示唆される。

【問題（例）】

問題 7（1）

下線部としくみが同じ現象を，下のアからエまでのの中から 1 つ選びなさい。

空気が乾燥しているので，しみ出した水は，すぐに熱をうばって蒸発するため，全体が冷えます。

- ア かき氷をすくった金属のスプーンの温度が下がる
- イ ラムネ菓子を食べると化学変化で口の中の温度が下がる
- ウ アルコールで手を消毒すると，手の温度が下がる
- エ 氷に食塩をかけると 0℃より温度が下がる

正答：ウ

本校：41.3% 全国 35.9%

<分析>

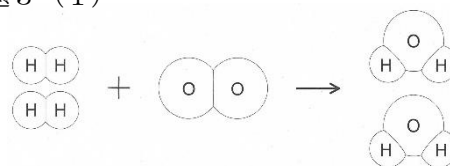
液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する問題である。

日常生活と関連付けた指導を行うように意識していることが、正答率が高くなることにつながったと考えられる。

この問題は「粒子」を柱とする領域として位置づけられているが、2年の「地球」を柱とする領域で紹介される内容である。領域を横断した指導が充実していると考えられる。

【問題（例）】

問題 3（1）



水素の燃焼の化学反応式を，下のアからエまでのの中から 1 つ選びなさい。

ア $4\text{H} + 2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$

イ $\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_2\text{O}$

ウ $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$

エ $\text{H}_4 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_4\text{O}_2$

正答：ウ

本校：70.3% 全国 80.1%

<分析>

分子のモデルを表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す問題である。

この問題は全問題で最も正答率が高い問題であることから、化学反応式の基礎基本が身に付いていない生徒が多いことが考えられる。基本を理解させる活動が必要である。基礎基本の定着のために、小テストなど自主学習につながるはたらきかけを検討していく。

<質問紙調査から>

【(例1)】

質問

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本校生徒の割合

89.7%

<分析>

- 今回の質問に対して、89.7%の肯定的な回答は、全国平均より4ポイント、県の平均を6ポイント以上上回った。
- ◎本校では平成30年度から教科化となった道徳の授業について、全校で研究に取り組んできた。道徳の授業において、考えたり議論する場面を通して道徳心や実践力を育むことを目的とした。その成果が表れているものと捉えている。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒は82.7%と全国平均の76.8%を5ポイント以上上回っており、生徒は道徳の授業で実践してきた「考え、議論する」ことを、学級生活でも実践していることを示す結果となった。

【(例2)】

質問

学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本校生徒の割合

96.1%

<分析>

- 「役に立つ」と答えた生徒の割合は全国の平均を6ポイント、県の平均を3ポイント以上上回った。
- ◎昨年度から1人1台端末環境が整備されたが生徒の感覚としても、学習にICT機器が活用できると捉えているようである。
- 本校では、ICT機器の積極的な活用を全校で取り組んでいる。「学校でICT機器を意見交換したり調べたりするのに、どの程度使用するか」の質問に「ほぼ毎日」が2.9%(全国平均は12.3% 以下同様)「週1回以上」が19.9%(24.9%)「月1回以上」が51.3%(34.5%)であった。活用をはじめて1年間が経過したが、全国平均よりも低い数値となっている。令和4年度は教科指導や特別活動などで幅広く活用されているので、この割合が、来年度は大きく増加することが見込まれる。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	59.5	61.7	13	55.4	55.8	12	64.1	65.2
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	57.3	59.3	6	58.4	58.5	7	61.8	60.8
話すこと・聞くこと・書くこと	5	53.8	53.8	4	63.5	56.5	4	50.7	49.9
読むこと	8	55.2	57.1	7	58.9	58.5	7	37.5	40.3
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

数学（内容は算数）	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	56.2	60.8
図形	8	51.9	55.8
変化と関係	7	49.2	56.2
データの活用	5	49.6	55.4
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑	↑↑↑↑

数学	第 2 学年			第 3 学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	13	47.9	54.0	12	64.5	67.7
図形	6	44.5	47.9	8	50.7	51.9
関数	4	47.4	53.8	6	39.1	44.0
データの活用	7	53.3	55.6	6	53.3	55.8
※学力の伸びた生徒の割合		↑ ↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑ ↑		↑ ↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑

英語	第 2 学年			第 3 学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	62.3	67.3	10	54.7	54.9
読むこと	18	58.4	60.6	18	60.0	62.8
書くこと	7	36.3	43.1	7	37.1	39.8
※学力の伸びた生徒の割合					↑ ↑ ↑ ↑ ↑	↑ ↑ ↑ ↑ ↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は８０％以上（％）

内容	項目	第１学年	第２学年	第３学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 98.6	96.1 97.1	96.3 97.4
	② 授業開始時刻	96.9 93.9	97.1 97.1	97.6 99.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.1 88.5	89.8 90.5	92.3 92.8
	④ 整理整頓	77.1 75.0	77.0 74.5	80.8 79.6
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	81.9 80.4	81.7 81.0	83.5 88.8
	⑥ 返事	88.0 85.8	86.6 79.6	88.3 90.1
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.2 91.9	90.5 92.0	92.2 94.1
	⑧ やさしい言葉づかい	89.3 85.8	88.1 85.4	88.7 89.5
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	91.9 93.9	91.2 89.1	92.5 94.7
	⑩ 話を聞き発表する	77.2 69.6	73.4 67.2	76.7 73.0
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.6 91.2	92.5 89.1	94.6 96.1
	⑫ 掃除・美化活動	85.8 88.5	84.3 81.0	85.8 86.2

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 個別指導の徹底

- (1) 個別指導の時間を確保し、チームティーチング等での指導。
- (2) 授業の約束や宿題をきちんとやる等、授業のルールを守る指導。
- (3) ICT機器を活用した個別最適化を目指した指導。

☆2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間を確保します。
- (2) ICT機器を活用し、生徒の思考を視覚化・集約し、言語活動を深化します。

☆3 学習に対する態度の育成

- (1) 日常生活や授業における適切な言葉遣いの指導
- (2) 教員による評価だけでなく、生徒自身による自己評価や、生徒同士による相互評価を日常化します。

授業以外の取組

■1 家庭学習の習慣化

- (1) 家庭学習の時間の確保を呼びかける。
- (2) 家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定して意欲を高めます。

☆2 生徒一人一人に合った学力向上に向けての取組

- (1) 定期テスト前の部活動停止期間中の放課後に、1～2日間の質問日を設定し、実施した。
- (2) 夏季休業中に3～5日間の補習授業を設定し、実施した。

本校の学力向上プラン

(1) 本校の学習指導目標

「学力」の3つの要素

- (1) 「基礎的・基本的な知識や技能」：基礎的・基本的な学習内容を生徒に確実に身に付けさせる。
- (2) 「思考力・判断力・表現力」：よく考え、豊かに表現できる力を育てる。
- (3) 「学習意欲」：学習規律の定着と徹底を図り、主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。

「学力」の育成のため、(1)「何ができるようになるか」(2)「何を学ぶか」(3)「どのように学ぶか」という3つの視点を持ち、質の高い理解を図るために生徒の主体的な活動の充実を図る。

(2) 具体的な手立て

①「授業の約束（3つの行動）」

ア 生徒の思考・表現を可視化する言語活動を充実させた、意図的・計画的な学習を積み重ねることにより、思考力・判断力・表現力を育み、学力の向上を図る。

イ 「意見を聞いて比べ、深める」「自分の意見や考えを発表する」「協力して実習・実技や話し合いをする」などの活動を取り入れることで「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で授業改善を進める。

「思考力・判断力・表現力を伸ばそう！」



②「授業の約束（5つの心構え）」

- ア 「授業の約束」を守り、きちんとした態度で授業を受ける。
- イ 学習規律を定着させ、授業に向かう気持ちと姿勢を作る。
- ウ 1時間の授業を大切にし、意欲的に授業に取り組む姿勢を育てる。

授業の5つの心構え 進んで学び、自らを向上させよう

- 一、2分前着席をしよう
- 二、大きな声であいさつをしよう
- 三、意欲的に取り組もう
- 四、自分の考えを表現しよう
- 五、準備をしてから休み時間にしよう

③学習指導

- ア 互いに協力して学び合う学習集団を醸成する。
- イ 教科部会の定期的な開催を軸に、指導と評価の一体化を図り、常に授業改善に努め、わかる喜びを味わわせる指導法の工夫・改善を図る。
- ウ 定期テスト前の放課後や長期休業日を利用した補習授業を実施する。また、基礎・基本の確実な定着を図るため、長期休業後に確認テスト(国・数・理・社・英)を全学年ともに実施し、結果の活用を図る。
- エ 英語、数学でのTT指導による授業展開で、個に応じた指導の充実を図る。
- オ 家庭学習の習慣化を目指し、自主学習ノートを提出させ担任が指導・助言をする。
- カ 校内研修の充実を図り、学力調査結果の分析を通して、指導法と評価の工夫と改善を図る。

④新型コロナウイルス感染予防策について

- ア 感染予防の啓発のため、校内に感染防止を呼びかけるポスターを掲示する。部活動や委員会の活動にもつなげる。
- イ 手洗いの励行やマスクの着用を教師・生徒同士で呼びかける。
- ウ 体調管理表の記入と確認をする。
- エ 校内の消毒作業を実施（消毒チェック表の活用）する。

保護者・地域の皆様へ

本年度の埼玉県学力学習状況調査の質問紙調査において、本校の生徒はほとんどの項目で80%以上の達成率が示されています。傾向として、学年が上がるにつれその達成率が県の平均を上回るようになるなど、学校生活の中で規律ある態度を身につけながら成長している状況がうかがえます。

本校では、平成30年度から令和3年度まで「豊かな心を育む道德教育の充実」というテーマのもと「考え、議論する」道德の授業を実践してまいりました。道德における学びには、上記に関わるような、人との接し方、規律ある態度などの育成にも大きく関わるものであり、その成果が今年度の結果にも表れていると考えます。より健やかな生徒の成長を目指し、今後もこの取組は継続していきます。

また、令和3年度からは「主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実」をテーマとして、主にICT機器の活用を取り入れた授業を実践することで学習活動の充実を図っていくこととしております。学習面に関しても、生徒一人一人が向上心を持ち、意欲的に学べる体制を、家庭・地域と連携しながらつくり上げ、生徒のよりよい成長を促していきます。よろしくお願いいたします。